

SunLetter



Trick or ドラセナ

～買わなきゃ食べちゃうぞ～



本島中部の中城村にて4000坪の畑を1人で管理する安里さん。「日中は暑くて大変」と話します。午前7時から10時まで圃場に入り、午後は日差しのやわらぐ4時ごろから作業を開始します。

現在、レインボーをはじめ8種類のドラセナを栽培しています。突然変異で形や色の異なったドラセナができると、それを栽培し増やす事が楽しみです。

レインボーの花言葉は「真実さ」。まっすぐ伸びた赤い葉が印象的で花火を打ち上げたようなシルエットです。

中城村 安里さん



恩納村 長浜さん



太陽の花
沖縄県花卉園芸農業協同組合

恩納村真栄田岬に近い場所でドラセナの栽培をしている 長浜さんはジョニーノブルの名付け親。1本からはじまったジョニーノブールは、現在多数の生産者が栽培し、赤ドラセナの代表格となっています。

害虫被害と台風災害を受けたときが一番の悩み。月に1度の消毒はかせません。「台風がきたらお手上げ」と話す 長浜さん。塩害を被り、圃場の回復には時間がかかり気が抜けません。

気温が下がると赤く色づきはじめるジョニーノブール。これからの季節に合った雰囲気のアレンジができることでしょう。